

令和5年度 教育活動関係者評価

藤枝順心高等学校附属幼稚園

1 幼稚園の教育目標

教育目標 豊かな心とたくましい体を持った子
重点目標 思いやりのある子 がんばりのきく子 挨拶のできる子

2 評価項目の達成及び取組状況（評価 A：十分達成 80%以上 B：達成 79～60% C：成果がやや足りない 59～40% D：不十分 39%以下）

(1) 指導領域の評価

評価の項目と主な観点	職員評価		評価の理由(成果や課題・改善策)	関係者評価
① 健康安全・体力の向上 ・朝のマラソンや運動遊び等による体力や運動能力の向上 ・健康で安全な生活をしようとする態度や習慣 ・様々な食べ物に興味を持ち進んで食べようとする意欲	A	88.6%	◇昨年度とほぼ同じで十分達成されたと考える。行事が多い中でもマラソン体操の回数を確保できた。学年によっては朝の体操以外の時間にもマラソンを設けるなど継続していた。保護者評価は99%と高評価であり、園の運動保育に対して評価をしている。とくに運動会、親子チャレンジウォーク、マラソンの評価が高かった。 ◇3学期の参観会では各学年運動の成果をマラソン大会という場で発表する。	A
② 人間関係・自立心 ・ものごとの善悪や決まりの大切さに気付いて行動する態度 ・友達の気持ちを大切にしようとする態度 ・人とかかわる楽しさを感じ、一緒にやろうとする態度	A	85.8%	◇昨年度より 2.6 ポイント下がったが十分達成された。担任が日々の保育だけでなく、行事を通して協力することや自分たちで解決することを教えていることの評価だと考える。反面、コロナを境に縦割りの活動が減ってしまっている。今後は縦割りの活動を通して、子どもを育てることも考えていきたい。 ◇発達に課題を抱えた子どもへの対応が課題となっている。	A
③ 言葉 ・自分の思いを言葉で伝えようとする態度と力 ・話を聞こうとする意欲や態度 ・読み聞かせを楽しむ	A	86.9%	◇昨年度より 1.3 ポイント上がり、十分達成された。担任は子ども達に自分の思いを伝えやすい雰囲気を作っている。また、話し合う活動も設定している。言葉がうまく話せない子どもには保護者と連携をしていることもよくわかる。保護者からの評価も95%と高い。 ◇英語シアターは、行事に追われなかなか継続的に取り組めていないのが現実である。保護者からは継続した取り組みを望む声が多い。	A
④ 表現 ・活動に興味や関心を持って取り組み心を動かされる姿 ・自分の思いを自分の方法で楽しみながら表現する喜び	A	89.4%	◇昨年度より 1.4 ポイント下がったが十分達成できている。本年度はとくに絵画活動に力を入れて取り組んだ。昨年と変わり、子どもが豊かに表現していることがわかる作品が多いためか職員は手応えを感じている。また、保護者アンケートでは高く評価してくれている。保護者評価は99%と非常に高い。まだ取り組み始めて1年であるため、継続して取り組んでいきたい。	A
⑤ 環境 ・園内外の動植物に興味関心を持って接しようとする態度 ・野菜や花の成長を喜び、世話をしようとする態度 ・環境とかかわって遊んだり遊びをつなげたりする態度	A	86.9%	◇昨年度より 3.7 ポイント上がった。自然環境という点では市街地にあるため難しい問題であるが、そうした中でも担任自身が虫などを捕ってきたり、プランターで育てたり工夫をして子どもに提供している。保護者の評価は88%と高い。 ◇預かり棟横の小さな畑を有効活用しているが、なかなか思うように野菜が収穫できなかった。 ◇ビオトープが閉鎖された場所にあることや、水が流れていないなど本来の機能を果たしていない。職員は改善を望んでいるが、なかなか難しい。	A

(2) 園の重点目標や活動についての評価

<p>1 がんばりのきく子 ・困難なことがあっても最後までやり遂げようとする姿</p>	A	92.0%	<p>◇昨年度より 1.4 ポイント上がった。保護者の評価も 93%と高い。大きな集団がプラスに働き、子ども同士が励まし合う姿がたくさん見られる。とくに、運動会、発表会、チャレンジウォークと大きな成果をあげることができた。 ◇チャレンジウォークでは、ほぼ全員が6キロの距離を歩き通すことができ、自信につながった。保護者も大変驚き、感動していた。反面、保護者の中には負担が大きいと否定的な意見も出ているのは残念である。</p>	A
<p>2 思いやりのある子 ・友達のことを気遣い友達の気持ちを考えて行動する姿</p>	A	93.7%	<p>◇昨年度より 3.2 ポイント上がった。各学年に思いやり溢れる優しい行動が見られる。担任との関係も大変よい。保護者の評価は 97%と高い。 ◇課題としては、支援を要する子どもが関わるトラブルがある。対応の仕方が大変難しく、保護者の協力をお願いしているがなかなか改善されない。今後もこうした傾向は続くと考えられるため、専門研修の必要がある。</p>	A
<p>3 あいさつのできる子 ・自分から挨拶したり挨拶されたら挨拶を返したりする姿</p>	A	82.9%	<p>◇昨年度とほぼ同じで十分達成されてはいるが、最近の課題となっていることも事実である。集会などでは大きな声で挨拶できるが、個として朝の登園時などでは先生が挨拶しても返せない子どもも多い。また、担任には挨拶できても他の先生にはできない場合も見られる。改善しようと取り組んでいる担任もいる。 ◇挨拶できない、また返せない保護者も増えてきているのは課題である。</p>	A
<p>4 行事の評価 ・様々な行事での園児の姿、行事の計画・運営等の評価</p>	A	92.7%	<p>◇昨年度より 1.9 ポイント上がった。コロナが 5 類に変わり、全職員がよい行事にしようと考えてこれまで以上に力を入れていたことがわかる。行事での子ども達の姿を見て、手応えを感じている。 保護者の評価も 97%と非常に高く、満足度が高いことがわかる。</p>	A
<p>5 個に応じた指導 ・園児の理解に努めそれに応じた指導ができたか</p>	A	91.4%	<p>◇昨年度より 6 ポイント上がった。学級補助が増えてきたため、担任が個に関わる時間が増えてきている。担任に一任するのではなく、職員全体で子どもの情報を共有し、対応策を考えている。課題は支援を要する子どもが多くなっているため、個々への対応が難しくなっている。 ◇保護者から 95%という高い評価を得たことは、「わが子を大切にしてもらっている」という満足感の表れと思われる。</p>	A
<p>6 地域の施設や人材、自然を生かした指導 ・地域理解に努め地域を生かす指導ができたか</p>	A	82.4%	<p>◇例年の本園の課題であったが昨年度より 6.5 ポイント上がった。近くの畑(仲田さん)を利用させていただいていることが子どもの成長に好影響を与えている。また、チャレンジウォークは担任・保護者からの評価も高い。園外保育が行事の関係で3学期に集中してしまう。反面、園外保育がなかなかできない状況もある。クラス単位でも園外散歩に行ける工夫をしていく必要がある。保護者の評価 88%と昨年度よりやや下がった。</p>	A
<p>7 保護者への対応や連携 ・保護者への連絡や対応、連携が適切であったか。</p>	A	92.0%	<p>◇昨年度まで3年連続下がり続けたが、5.3 ポイント上がった。シール帳のコメントをやめたため、これまで以上に丁寧に保護者へ伝え、連携を図る努力したことが大きい。今後はコドモンでの効果的連絡のあり方を検討したい。 反面、保護者の評価は 89%と下がった。理由として考えられるのは、保護者はシール帳のコメントを望む声が複数あったことである。</p>	A

8 園内研究や研修の推進 ・指導力や保護者への対応力向上等の研修ができたか。	A	92.4%	◇昨年度より 11.7 ポイント大幅に上がった。本年度は南ブロック研修会場となり、全ての担任が公開保育を行い高い評価を受けたことが大きい。また、1年を通して絵画研修に全員で取り組んだことが大きく影響している。研修を通して絵画保育への手応えを感じていることもわかる。	A
9 校務分掌の適切さ ・仕事量と人数が適切で効果的な分掌となっていたか。	A	90.0%	◇昨年より 11.7 ポイントと大幅に上がった。担任補助が大きな行事の時はサポートしてくれたため、各係が分掌の仕事に集中できた。また、協力体制もできていることが大きい。反面、経験年数の少ない若手が増えているため、どうしてもベテランや分掌主任に中心的な仕事が偏ってしまう傾向になる。 ◇保育日誌、シール帳など働き方改革で改善してきたが、相変わらず遅くまで職員が残って仕事をしている現状を考えると、さらに見直す必要がある。	A
10 魅力ある園づくり ・就園先として選択される園づくり	A	93.3%	◇昨年より 2.7 ポイント上がった。少子化が進む中、他園が園児確保に苦心する中でも、多くの園児が入園してくれることを考えると魅力ある幼稚園と保護者から評価されていると考える。また、職員も自信を持っている。今後も、保護者や子どもに満足度の高い活動や行事を提供できるよう努力していきたい。兄弟の関係で他園を知っている保護者が、順心に入れて本当に良かったと話してくれたことが全てを語っている。	A

3 本年度の重点 「笑顔あふれる幼稚園」

1 笑顔あふれる保育や行事を提供できたか	A	94.5%	◇昨年度より 3.7 ポイント上がった。担任は子どもの笑顔が輝けるよう保育や行事を提供していると自信を持っている。反面、行事が多く多忙感を感じている職員も多く、もっとゆとりを持って子どもと活動したいとの思いも受け止めなくてはならない。保護者の評価は 97%と非常に高く、園の取り組みを評価している。	A
2 子どもは笑顔で園生活を送っているか	A	96.6%	◇昨年度より 3.4 ポイント上がった。子どもにも Smile・Smile・Smile が定着している。子どもが笑顔で生活できる保育を、担任が提供しているのがわかる。 ◇保護者の評価は 97%であった。	A
3 教職員は笑顔で子どもや保護者に接しているか	A	98.3%	◇園に Smile・Smile・Smile がしっかり定着した。全職員が Smile・Smile・Smile を意識し、自信を持って保育しているのがわかる。それが保護者へも伝わり 99%という高い評価になって現れている。保護者の自由記述には職員の笑顔に対する好意的なものが多数寄せられている。	A

4 総合的な評価結果(園内評価委員会の評価を記載)

評 価	理 由
A	<p><園としての評価></p> <p>○少子化が進む中、来年度の入園児を定員以上獲得できるという大きな成果を挙げた。笑顔あふれる幼稚園の定着、保育の質、保育環境の充実、職員の対応など魅力ある園づくりを進めてきたことが、未就園の子どもを持った保護者が高く評価してくれたと考えている。それが評価となって表れている。</p> <p>○本年度は、各項目とも自己評価が非常に高かった。また、昨年度は担任と非常勤職員（補助、預かり、事務）の評価に差が見られたが、ほとんど差が見られなかった。このことから、職員は日々の保育に充実感を感じ、また手応えを感じていると考えられる。とくに、「園内研究や研修の推進」の項目の評価が昨年度より大幅に向上した。年間を通して絵画指導の研修を充実させたことが評価されたと考える。</p> <p>○保護者の評価と教職員の評価が一致していることは大変好ましい。</p> <p>●保護者の評価は高く、職員の評価とほぼ一致している。しかし、自由意見には厳しいものが多くあった。中には、シール帳のコメントをなくしたことの評価が職員と保護者で正反対となったものもある。働き方改革が叫ばれる中、よりよい保育のために改革しようとする、保護者からは受け入れられないこともある。その都度、丁寧に説明していく必要が求められる。</p> <p><評価委員会の評価></p> <p>○保護者目線で見ると、最高の愛情と細心の注意を払って保育をしてくれていることがよくわかる。</p> <p>○職員の一体感が様々な項目の評価でわかる。評価を読むと、子どもが育っていることを具体的に姿として書かれているし、成長を感じる。今後、このような成長した子どもの姿を「見える化」していくことが保護者へ伝え、啓発することになる。</p> <p>○先生達を見ていると、常に Smile・Smile・Smile を感じることができる。笑顔あふれる幼稚園が定着している証である。補助の先生が増えたことにより、担任の負担が軽くなりゆとりが生まれ、よりよい保育につながっていると思われる。また、それが評価となって表れている。</p> <p>○順心卒園生は小学校でも発表力や表現力が優れていると評判。また、「席に座ってられる」「挨拶ができる」子が多い。これに加え「体力がある」子が増えていけばさらによい。</p> <p>●園を改善していくために、行事や活動を「なくす」ことも大切であるが、その際には保護者に対して「よりよいものに変えていく」という園の方向性や姿勢を見せていく必要がある。</p> <p>●異常気象が最近では異常ではなくなっている現実がある。子どもの安全を最優先にすることを考えると、マーチングなどの外での練習・活動を気候を考慮しながら行う必要があるのではないか。</p> <p>●保護者へもっと協力を呼びかけてもよいのではないか。協力したい人は多いと思う。</p> <p>●保護者は「食」への関心が非常に高い。自園給食を考えてほしい。</p>